

【 果 樹 】

昨年から様々な商品の値上げもあり、消費者も生活防衛から果実への出費は鈍く、果実全体で緩慢な荷動きが続いている。

干し柿類は、入荷量も減少傾向となっており、今後は相場を強めながらも、終盤まで売場を確保し流れを止めない販売となる。

今後は、ひな祭りがあるため、いちご中心の売場構成となってくる。

<あんぽ柿>

一定の売り場は確保され、安定した引き合いは見られる状況。

全体の減少を見据えた中で、相場を底上げしての販売となっている。

「蜂屋柿 230g トレー」 @特秀 4L 380~360円

「蜂屋柿 1Kg 化粧箱」 @特秀 3L 1,400~1,300円

【 野 菜 】

先週末に南岸低気圧の影響で寒気が流入する予報から、菌茸類や葉菜類といった鍋商材を中心に事前注文が増加し、荷動きは活発化した。

果菜類については、これまで断続的な寒波の影響で入荷量は低調だったこともあり、平年より高値基調となった品目も見られた。

今後は、気温が上昇するにつれ野菜全般に入荷量も増加傾向となり売り場も広がっていくことから、果菜類や山菜類の引き合いは強まる見通し。葉菜類については、荷動きの鈍化が懸念され、相場を弱める見通し。

<いちご>

全体量の増加に伴い、荷動きは鈍化しているが、量販店のメイン商材として安定した引き合いは見られることから、相場は保合で推移した状況。今後は入荷量、競合品目の動向を見ながらになるが、相場を弱め、荷動きを促す販売となる見通し。

@2L 450 ~ 430円 A 380 ~ 350円

<に ら>

北海道市場は道内産無加温作の増量と高知県産も安値の案内が多く、京浜市場は気温高の予報もあり荷動きの鈍化が見込まれるため、次週は相場をさらに弱める見通し。

@A L 100円 ~ 90円

<春 菊>

北海道、京浜県内市場共に気温高による需要低下により、荷動きの鈍化が見込まれるため、末端売価を下げ荷動きを促すために、相場を弱める見通し。

@A 120円 ~ 110円